



0歳からの幼児教育—選択と集中そして

お子さまのご入園・ご進級おめでとうございます。これから始まる新しい生活は、新入園児はもちろんのこと進級児にとっても、しばらくは緊張の毎日になるものと思われま。園では玩具や絵本だけでなく興味を引くコーナーを用意して、一日も早く元気に登園してくれるようにしてまいります。

さて、当園の園名の「みみょう」は、仏説阿弥陀経というお経の中の「微妙香潔」から引用したものです。阿弥陀経は極楽を説明したもので、その一説に、池の中には大きな車輪のような蓮の花が咲いている。青いのもあれば、黄色や赤、白いのもある。それらが一斉に咲く様子は何とも言えないほど（微妙）得も言われぬ芳しい香りがあり清らか（香潔）であるとあります。園名には、一人ひとり持って生まれた個性を伸ばしてあげたいという願いが込められています。

新年度なので、少し難しいお話しをします。来年から小学校の学習指導要領が改訂され、これまでの「教えられたことを正確に記憶し理解する学習」だけでなく、「持っている知識を使って、自分が向き合っている課題を解決する力（問題解決型学力）」を重視した学習に変わります。

自らが意欲を持って取り組む「能動的学習」という学習方法として、子どもたちが話し合いの中で思考力や判断力を養う、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）といわれる学習方法が全教科に取り入れられます。言い換えると、受け身の学習から子ども自身が「学びたい、知りたい」と思う意欲や、粘り強く取り組もうとする気持ちを育て、子ども自身が発言し挑戦する学習が増えるということになります。教科書の量も増えます。

幼稚園や保育所、認定こども園は、すでに昨年4月から新しい教育要領や保育指針に基

づく保育が始まっています。

子ども自身が意欲を持つ「学びたい、知りたい」と思う意欲は、小学校に入ってから身につくものではありません。誕生後しっかり可愛がられ、励まされながら自分に対する自信を持つ自己肯定感が基礎になります。

当園では、一昨年から「0歳からの幼児教育—選択と集中そして」をキャッチフレーズに、子どもたちが自分から行動したくなる主体性を高める教育・保育を進めてきました。

0歳からの幼児教育とは、赤ちゃんの時からしっかりと愛情をそそいでもらい、普通の愛情で満足できるようになることが原点ですが、これは将来の優しさや思いやりにつながります。可愛がられることで大人に対する安心感と信頼感を持った子は、赤ちゃんのときから大人が好きになり、大人が用意したいろいろな環境に興味や好奇心を持つようになります。1歳から2歳にかけて行動が広がり、保育者への信頼関係が深まると、3歳からはコーナー遊びなどで友だちと遊ぶことや工夫することが好きになり、あそびを通して集中力をつけたり、集団生活のマナーや保育者の設定した集団での一斉活動（学校教育）ができるようになります。

子どもたちが自分から行動したくなる主体性は、好きなことが選べることが大切です。赤ちゃんのときから驚きと感動、楽しさを大切にしたいあそびを選ぶことが、子どもたちの集中力につながり、仲間意識を育て、3歳以降の子ども同士と一緒に考えたり工夫しながら育つ「非認知能力」といわれる目には見えない「やる気」や、小学校以上に望まれる「学びに向かう力」へとつながります。

ご家庭でもお子さんの話をしっかり聞いてあげ、うなずき、はげまし、自分の存在に自信が持てるようにしてあげてください。

本年もよろしくお願いたします。

理事長

